

第32回「議員と語りかい」報告書

4班 (No.1)

開催日	令和元年11月12日(火) 午後7時～8時30分		
開催場所	小野地区公民館		
団体名	小野地区自治公民館	参加人員	17人 (男13人:女4人)
出席議員	川窪 幸治、宮田 竜二、木野田 誠、新橋 実、植山 利博、前川原正人		
役割分担	班長(植山 利博) 副班長(木野田 誠) 記録係(前川原正人)		
テーマ及び具体的な内容	・隼人町小野地区の現状と今後の対策や行政との情報共有について		

意見交換の主な意見等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆認可の必要がない1,000㎡未満の開発が進んでいる。県営住宅地区の宅地造成が進んでいるが住民はホコリや騒音に困っており、何とかできないのか。
	◇近所に迷惑を及ぼさないような取組を求める指導が必要と考える。霧島市一円で小規模な開発が行われているので、建設委員会でも指摘をしていきたい。
	◆中福良が7月の大雨で大変であった。小野地区(小野小学校の歩道)隼人駅前も、これまで降灰などによる堆積土がある。災害が起こる前に対応が必要と思う。また、公民館の屋根の赤さびもあるが手当てをしてほしい。
	◇今後行政に対しても、「どれぐらいの経費や期間がかかるのか」など、市民への説明を議会としても求めている。霧島市にとっても安心安全の取組みが必要と考える。公共施設も「公共施設マネジメント計画」を計画し、少しずつ進められている状況である。
◆清水の海岸(三島ドライブイン付近)にマンション建設が進められている。小野小や富隈小、小浜小があるが、小学校はどこに行くのか。国道10号を横断するなど、安心安全対応を求めたい。(公民館長が小学校長に情報提供している)	
◆農振地域に休耕田が多くなり有効活用はできないのか。将来的には活性化されていくことになり、まとまりのある場所を考える必要があるのではないか。	

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◆空き家が多くなり老朽化の問題があり、解体費用も掛かることになる。建物がなくなると税金が大幅に上がるが税金を安くできないのか。(要望)

◇開発という視点と農地を守るという視点がある。農振地域と休耕田の問題は頭が痛い問題である。地域振興と農地利用の問題がある。危険家屋の場合は、強制的に撤去できることになるが、難しい状況がある。空き家が危険家屋の場合、補助金制度もあるが国としても動きがある。

◆西郷どん村は事業者撤退となったが、今後の展望はどうか。また、公共施設マネジメント計画があるが、歴史民俗資料館等をなくすることはやめてほしいと思う。この地域は良い施設があるというアピールが必要ではないか。

◇西郷どん村の建設については、地域の要望であったと聞いている。約6億円の財源を入れて取り組んできた経緯がある。12月から本格運用していくとの計画があり、観光面や地域活性化が図られていくと思う。資料館については、なくすのではなく、一つにまとめるべきではないかとの議論がある。

◆自治会役員になり手がいない。活動に関心がない、できれば脱退したい、個人情報を知られたくないなどの問題があるがどう考えているのか。

◇自治会に入りたくなるような取り組みが必要ではないかと考えている。全国的には、自治会活動にSNSを活用している事例もある。自治会は防災と地域のコミュニケーション問題として私たちも取り組んでいきたい。

◆避難の場合、食料・布団などを持ってくるように言われるが、何とか改善できないのか。避難所が不足しているのではないか。災害が起こった後の対応をどうするのか。食料や水などの備蓄はできていないのか。

◇一時避難は自分で対応する。二次避難は行政が対応することになる。(防災マップで確認することができることを説明)

◆小野地区には3か所の河川があるが、草が繁茂し、人力では手に負えない状況であり改善できないのか。

◇市に要請したい。

◆隼人駅前の駐車場の改善、隼人町の大規模太陽光発電や九電は私たちにとってどう関係があるのか。また、地域清掃でのボランティア袋は市にはないのか。

◇駅前の駐車場は行政に要請している。太陽光発電は業者との協議は必要ではないか。ボランティア袋は市に要請していきたい。

意見交換での主な意見等